

# MJOT 会報

## ハンガリー日本語教師会会報へ寄せて

駐ハンガリー特命全権大使 伊藤 哲雄

皆様、はじめまして。ブダペストに着任してからこの2月で5ヶ月となりました。ハンガリーの方々は親切で優しく、これまで公私共に快適な日々を過ごしています。

さて、昨年は皆様ご存知のとおり、外交関係開設140周年及び外交関係再開50周年を祝う「日本・ハンガリー交流年2009」にあたり、両国において多くの周年事業が実施されました。特に、5月に秋篠宮殿下同妃両殿下がハンガリーを、12月にショーヨム大統領が日本を訪問されたことは両国交流の歴史に残る重要な出来事でした。光栄なことに、私も大統領の訪日に同行することができました。また、ここハンガリーでは10月の共同記念切手発行、11月のエリザベート橋ライトアップ事業を始めとする100以上の各種周年事業が行われ、多くのハンガリーの方々に日本への関心を持っていただく好機となりました。周年を通じ、両国関係は、エリザベート橋同様にその未来が明るく照らされることとなり、大変喜ばしいことと存じます。



両国関係が深化するにつれ重要となるのは、それを支える人です。その観点から、私が驚き、また大変頼もしく思っているのは、ハンガリーにおける日本語学習者の多さです。昨11月に参加させていただいた日本語スピーチコンテストにおいては、発表者のレベルの高さ、透けて見える努力の跡に感心しきりでした。他にも、貴会が主催する日本語キャンプの開催や言語フェアへの参加などを通じて、日本語教育の裾野も着実に広まりつつあることを、例えば地方都市において日本語で出迎えていただいた時などに、強く実感いたします。これも皆様のたゆまぬ努力と熱意によるものと敬意を表します。

私どもも、国際交流基金や教育機関等と連携し、日本文化発信プログラムや日本ハンガリー協力フォーラムを始めとする各種支援プログラムを組み合わせながら、これからも皆様の活動を支援して参りたいと考えております。引き続き、才能に溢れる若者達の育成に一層励んで戴きますよう、この場を借りて改めてお願い申し上げます。

この筆をとっている今、周りは純白の雪に包まれ、新たな1年の幕開けを告げています。皆様におかれましても、本年が良い年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。



## ハンガリー商工会

会長代理 岩付 知之

ハンガリー商工会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

私は、昨年12月14日にデンソーハンガリーという製造拠点に赴任して参りました。

出社の初日に、社内のマネージャーを集めた会議で、マジャール語にてスピーチを致しましたが、発音もなかなか満足に行えず、四苦八苦したのを昨日のように思い出します。

マジャール語の難しさについては、その単語がラテン語など他言語と共通するものがほとんどないこと、また母音調和や独特な活用法、語順のあいまいさが言われております。

しかし、逆に日本語について考えて見ますと、単語の特殊性や丁寧語の存在、さらには漢字の使用など、難易度はマジャール語以上とも思われ、日本語を勉強するハンガリーの方や、日本語教師の方々の努力が並大抵ではないと、実感いたします。

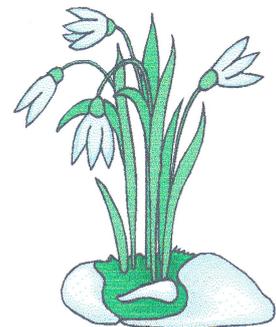
私どもの拠点は、自動車用の精密部品を生産している、いわゆるものづくり企業であります。オフィスはともかく、工場現場では英語のわかる現地の方が少なく、日本語にて技術・技能の伝承を行って来ました。

そのため、現在社内に14人のハンガリー人の専属通訳者が活躍しており、また社内の日本語研修コースにて、延べ100人程が受講し日本語の習得を図っております。

このハンガリー人通訳者の育成、また日本語研修の教材の提供など、ハンガリーでの日本語教育に長年取り組んで頂いた皆様のご尽力の賜物であり、この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。

さて、ハンガリー日本語教師会は、2001年2月に発足され、本年は節目となる10年目を迎えるとのことでもあります。設立時に約900人であった日本語学習者数も、現在では約1500人と、1.7倍の規模にまで拡大しており、大変大きな成果を挙げられて来ました。

今後とも、日本語教育の研修会の開催や日本語能力試験・問題集の整備など、日本語教育の一段の拡充とともに、日本語を通じたハンガリー、或いは欧州内での文化交流の促進に、より一層ご活躍されますことを心から祈念しております。



## 運営委員会よりのご挨拶

MJOT 会長 佐藤紀子

会員の皆様、21世紀もいよいよ二桁時代に入りました。いかがお過ごしでしょうか。昨年に引き続き、同じメンバーで教師会の運営を担当することになりました。本年もよろしくお願い致します。

ここ数年、翻訳・通訳研究をする中で「対話 (dialogue)」という言葉をよく耳にするようになりました。CEFR の中にも「対話者」や「対話の相手」という言葉がよく出てきます。心のこもらない言葉のやりとりでも会話は成立しますが、言葉がなければ会話は成立しません。一方、対話は片言の言葉やボディラングエージだけでも成立します。ロシアの思想家バフーチンは、文学は作者と登場人物の対話で成り立っていると言っています。本気で伝えようとする意欲、相手の気持ちをおもひかき推察、推論の能力、忍耐と寛容さ、妥協や協調の気持ちがあれば「対話」は生まれます。社会生活、家庭生活で本当に必要とされているのは、会話のコミュニケーションではなく、対話のコミュニケーションであると考えます。今日この頃です。

そもそも外国語学習自体が、学習者の母語と新しく学ぶ言語との対話ではないでしょうか。母語とは異なる文法規則や語彙、表現、考え方、社会的文化的習慣に戸惑いながら、拒否したり共感したりしつつ外国語を習得していく過程は、学習者の文化と外国の文化が葛藤しつつも妥協し新たな感情や考えを創造して行く異文化間の対話の過程と捉えられるでしょう。

「雨降って地固まる。」外国語能力、異文化間コミュニケーション能力は、失敗や衝突を重ねながら臆することなく対話を重ねていこうとする意欲によって伸びていくのであらうと思います。語学教師の役目は、自己との対話力、外国人を含む他者との対話力を磨くお手伝いをする事です。そのためには、語学教師は、まずは自分自身の対話力の強化から始めなければならないようです。

教師会は、仲良し会ではありません。会員が、自分の職場に閉じこもらず、多方面の方々と共に様々な活動を協働で企画実行する中で教師としての研鑽を積むための組織です。運営委員会では、今年も研修会、日本語キャンプ、スピーチコンテストなど恒例の各種行事や新たな教材の出版を計画しています。会員の皆様の教師会活動への積極的参加をお待ちしています。2010 年も、大きな理想を掲げつつ、昨年に引き続きクリエイティブな1年にしていきたいと運営委員一同考えています。また、この場を借りて、日頃よりご支援ご協力を賜っている在ハンガリー日本大使館、国際交流基金、日本人会商工会に深く感謝申し上げます。

それでは、皆様のご活躍とご健康、ご成功を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



## 人々に助けられてここに在る幸運

木村麻規子

皆さま、こんにちは。私が初めてハンガリーの地を踏んだのは2007年9月1日の深夜のこと、8月31日のうちに到着予定だったものが経由地の空港でブダペスト行きの飛行機が大幅な遅延となり、長旅の疲労と睡魔でフラフラになりながらの到着でした。しかも悪いことは重なるもので、機内預け荷物がロストラゲッジになるという不運。落ち着き先だけは現在も勤めているコルビン・マーチャーシュ高校と決まっていたものの、それがどんな所なのかは皆目見当もつかず、それ以前にハンガリーへ来たこともなく、頼れる知人がいるわけでもない、ないないづくしで荷物もない！…そんな暗雲垂れこめる幕開けだった私のハンガリー生活も、早いものでもうすぐ2年半になろうとしています。

コルビン・マーチャーシュ高校には、私が来る以前に日本語のクラスはありませんでした。日本語は今も正規授業ではなく、課外活動扱いです。私が来た時にはすでに2007-2008年度の時間表は出来上がってしまった後で、その中に日本語の授業の枠はなく、もちろんそんな環境ですので日本語関連の教材などもあるわけがありません。だから教材は自前か手作りの物、そして国際交流基金からお借りした物でまかないました。コピーをとるのも我が校では許可制



なのであまり自由にはなりませんし、職員室に機械がないので、最初の4ヶ月間くらいは「この学校にはコピー機が無いんだ…」と思っていたことを憶えています。

このようにすつとこどっこの私が、曲がりなりにも1年目のインターン期間を終え、2年目、そして現在の3年目まで続けてくることが出来たのは、多くの方々に助けられていただいたお陰です。国際交流基金からは学校へ教材を寄贈もしていただきましたし、物資的な面以上に、授業のためのアイデアなど、いつも親身に相談にのっていただいています。また、ブダペスト中心に活動をしているボランティアグループの『なでしこ会』の皆様にも、私一人では実現不可能だったことを実現するために多大なご協力をいただけてきました。この記事に使用した写真はその例です。そして、これをお読みになっている MJOT 会員の先生方、なかでも私のことを直接ご存知でいらっしゃる方々、すべての皆さんが私の恩人です。どなたからも何らかの形で助けていただきました。この場をお借りして、皆様にお礼を申し上げます。このように助けてくださる方々がいなければ、とても今まで続けては来られませんでした。

出だしは不運に見舞われ、何だか運のない私のハンガリー暮らしでしたが、このように大勢



の方々に助けていただけて「ひょっとして、私って運が良いのかも♪」と思っています。皆様、本当にどうもありがとうございます。これからもどうぞよろしく！



## 「育自」に励む毎日

渡辺 薫

昨年 8 月に女の子を出産し、一児の新米ママとなりました。職場や交通機関で「妊婦さん」としてちやほやされていた生活は一変し、私を取り巻く世界は赤ちゃんを中心に回り始めました。以来、ちょっとしたことでも一喜一憂し、様々な人の様々な意見の間でおろおろする毎日。そして、「継承語」という言葉もぐっと身近に迫ってきました。ハンガリーでの子育てとなると、診療所でも、赤ちゃん体操教室でも、買い物先でも、自然に聞こえてくる言葉はハンガリー語です。赤ちゃんを覗き込んで話しかけてくれる人々もちろん、ハンガリー人が多いです。このような環境の中で、赤ちゃんは日本語を身につけてくれるのだろうか、日本にいる家族とのコミュニケーションはどうなるのだろうか…家事と育児に追われる中で、私はあせりを感じました。私の夫も同じように心配していたらしく、ほとんどを家の中で過ごす私たちのために、海外で日本の放送が受信できるアンテナを設置してくれました。外国に住む親にとって、子供に自分の母語を伝えたいという願いは皆同じだと思います。なぜなら、母語の中には自分が子供の頃から温めてきた思い出や習慣がつまみついていて、その大切さ、愛しさに改めて気づかされるからです。

「外国での子育て、大変でしょう」とはよく言われますが、幸い私の周囲には、二重国籍の子供を持つ日本人のお父さん、お母さんの応援団がたくさんいました。お下がりのベビー服やベビー用品をいただけるだけでもありがたいのに、様々な相談にもものっていただいたり、家事も大変でしょうとご飯を作って持ってきてくれたり。ハンガリーに暮らす日本人の子供たちを対象にした赤ちゃんサークルもあるそうで、もう少し暖かくなったら、他の子供たちとお母さんたちの交流に参加してみようと楽しみにしているところです。日本の育児書とハンガリーの保健婦さんや姑さんが言うことが正反対だったりして、「日本とハンガリーの二つの世界に挟まれている！」と戸惑いイライラし、夫に八つ当たりもしてきた私ですが、生活のリズムを徐々につかみ、様々な暖かい人々の存在に励まされている今、ここでできること、私にできることできないことが分かり始め、実は多様な選択肢が得られたのではないかということに気づいたのです。案外、ハンガリーでの育児は、細かいことにあまりこだわらない寛容さがあり、のびのびしていて楽しいかも。

言葉—継承語に関しては、子供に「学ばせる、覚えさせる」のではなく、私が日々の生活の中で日本とハンガリーの言葉や料理や様々な習慣の背景を、興味を持って調べ追究し、「そうだったのか〜」と新しい面を発見し、家族の毎日の生活の中でそれを共有していくことで、娘は二つの母語を大切に受け取ってくれるのかもしれない。親がおいしい顔をして食べなければ、子供だってその食べ物を口にしてくれないのと同じですよ。

今、私も母親としての人生をスタートしたばかりで、まだまだ分からないことや未熟な言動も多いです。しかし、余裕がなかった最初の頃とは違い、二つの国の様々な人に支えられていることに感謝することができるようになりました。今しかできない娘の育児に励むとともに、自分を磨く「育自」を通して、娘と一緒に毎日を楽しみ、成長したいなあと思う今日この頃です。



**運営委員会より**

①1月20日、大使公邸において大使館・基金・MJOT 三者による意見交換の場が設けられました。詳細は在Bp. 日本大使館HPをご覧ください。

<http://www.hu.emb-japan.go.jp/jpn/annai/diary1001.htm>

②MJOT 作成教材『日本語初級問題集』と『日本語中級問題集』が完成し、販売を始めました。ご注文は下記へ！

『日本語初級問題集』(JAPÁN NYELV közép szintű érettségi és alapfokú nyelvvizsga feladatgyűjtemény)

『日本語中級問題集』(JAPÁN NYELV emelt szintű érettségi és középfokú nyelvvizsga feladatgyűjtemény)

共に一般販売価格は 2,990Ft.です。MJOT 会員価格は別途定めております。

注文受け付け担当: Kiss Sandórné Ilona  
e-mail: [mjot49@gmail.com](mailto:mjot49@gmail.com)

**会計より**

Kiss Sandórné Ilona

2010年の教師会活動が始まり、既に一ヶ月がたちました。会員皆様から年会費の納入を受け付けています。下記の方法でお納め下さい。(正会員:2,000Ft./準会員:1,000Ft.)

①研修会場にご持参:2月13日 13:00～  
3月13日 14:00～

②銀行振り込み:口座名はMJOT  
AXA Bank Zrt. 1138 Bp. Váci út 135-139  
IBAN HU35 17000019 11561860 00000000

**日本語教育研修会**

2月～3月に以下の研修会があります。会員皆さんの参加をお待ちいたしております。

2月13日(土)13:00～国際交流基金  
第16回日本語教育研修会

3月13日(土)14:00～国際交流基金  
第17回日本語教育研修会

**スピコン実行委員会より**

1月にMJOTのMLで次回のスピコン時期に関するご意見を伺いました。その結果、スピコン実行委員会提案の三月開催と決定いたしましたので、お知らせいたします。

スピコン実行委員長:内川かずみ

[kazumi812@gmail.com](mailto:kazumi812@gmail.com)

**キャンプ実行委員会より**

2010年の日本語キャンプに関して下記の通りお知らせいたします。本年も日本語講師と日本文化担当者を募集しますので、募集時期が参りましたら、ふるってご応募下さい。

期間:2010年7月19日(月)～23日(火)

場所:法門仏教大学

日本語キャンプ実行委員長:後藤史与

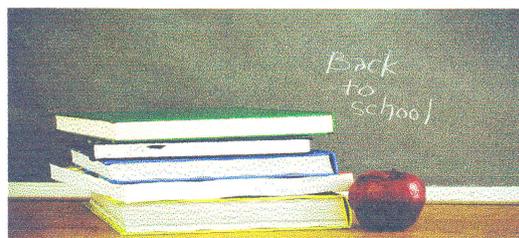
[goto234@hotmail.com](mailto:goto234@hotmail.com)

**MJOTのMLについて**

2月7日(日)をもちまして、長年活用してきたヤフーのMLを停止し、グーグルのMLに切り替えました。運営委員会に届いている「会員届」を元に皆様のメルアドを登録しました。メルアドの変更を希望される方、あるいはこれまで一度もMLが届いていないと言う方は管理人までご一報下さい。

ML管理人:Szemerey Márton

[mszemerey@gmail.com](mailto:mszemerey@gmail.com)



MJOT 会報17号

発行:2010年2月

発行人:ハンガリー日本語教師会

編集:後藤史与